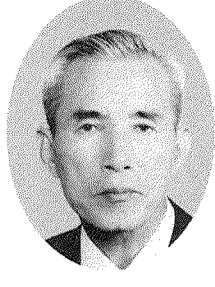




発行所
一般財団法人滋賀県遺族会
滋賀県大津市におの浜4丁目2-34
滋賀県遺族会館
電話 (077)522-7227
FAX (077)522-7233
発行責任者
滋賀県遺族会会長
大長 弥宗治

コロナ禍の事業活動

この一年を振り返る



滋賀県遺族会会長
大長 弥宗治

世界の新型コロナウイルス感染者は、今や累計2億人に迫っています。日本国内においても、年明けに11都道府県に緊急事態宣言が再発出。3月下旬に一旦緩和されたとはいえ、令和2年度は遺族会活動への影響著しい一年でした。振り返ってみたいと思います。

新型コロナウイルス感染症の我が国における最初の報道は令和元年1月6日、厚生労働省により中国武漢での原因不明の肺炎を注意喚起するものであり、2月には罹患者を乗せ横浜港に入港したクルーズ船内で感染者が激増し、その後市中感染の拡大により3月初めには、全国小中高が一斉休校となり、4月に

全国に緊急事態宣言が発出されました。

一つは、これを受けて滋賀県遺族会も次世代戦跡訪問研修事業の中止を余儀なくされ、その後、英霊顕彰事業の根幹である沖繩「近江の塔」平和祈念戦没者追悼式をはじめ、海外戦跡慰霊巡拝も中止せざるを得なくなりました。令和2年度の事業計画の内、多くの事業が中止あるいは縮小となっており、英霊の方々には大変申し訳なく思います。多くの犠牲者が出ていた新型コロナウイルス感染症が一日も早く終息することを祈るばかりです。

三つ目として、先の第222回の理事会で付帯決議されていた遺族会館検討委員会の設置について、今回の理事会で第7号議案として提出させていただきました。今後は、遺族会館を解体して土地を大津市に返還すべきか、あるいは、その跡地に新しく遺族会館を建設すべきかについて協議をいただくことになりました。

二つ目は、令和2年度の遺族会活動にかかる事業報告及び決算報告について、去る5月27日に第53回定時評議員会に關係議案を提出いたしました。審議の結果、提出議案全て全会一致で承認決議をいただきました。関係者の方々に心よりお礼申し上げます。

1・表2V。令和2年度末で、財政調整基金積立額が、1075万1175円となりました。この一般賛助金は令和3年度の第3回までととなっておりますので、どうかもう一年、皆様のご協力とご賛同をお願いいたします。全て次世代育成資金として積み立ていたします。令和3年度もご支援ご協力を切にお願い申し上げます。

〈表1〉一般賛助金 (円)

郡市町名	令和2年度
大津市	265,000
高島市	360,000
草津市	150,000
守山市	90,000
栗東市	105,000
野洲市	227,000
湖南市	105,000
甲賀市	265,620
近江八幡市	316,000
東近江市	755,000
蒲生郡(日野町)	120,000
蒲生郡(竜王町)	156,000
愛知郡	240,000
彦根市	505,000
長浜市	1,217,500
米原市	330,000
犬上郡(豊郷町)	80,000
犬上郡(甲良町)	20,000
犬上郡(多賀町)	50,000
賛助会員等	45,000
合計	5,402,120

〈表2〉財政調整金積立金 (円)
令和3年3月31日現在

項目	令和2年度期首残高	令和2年度積立金	令和2年度末残高
財政調整基金	5,349,000	5,402,175 (預金利息55円を含む)	10,751,175

偉大な遺族会のリーダーに感謝

滋賀県遺族会相談役 國松 善次

元滋賀県遺族会会長の山田利治さんが亡くなった。にわかには信じがたい知らせだった。それも、葬儀はコロナ禍のため「家族葬」でと、参加を控えるようにとの知らせ。あれだけ公私ともにお世話になり、また、コンビを組んで活動してきた仲間の死に「お礼」も言えない今生の別れとは。それにしても、山田さんは偉大なリーダーだった。それも「純粹な心」と「溢れんばかりの情熱」。加えて、「ブルドーザーのような行動力」を



故・山田利治氏

持った人だった。最初に会ったのは、「父の最後の手紙集」を発刊した直後の、八日市市遺族会青年部長で、僕は栗東町遺族会青年部長。母の日にカレライで母に感謝する集いを開催していた頃である。以来コンビを組み、夜になると県下各地を青年部結成に奔走。そして滋賀県は山田さんに任せ、僕は全国の青年部組織づくりに奔走。その間に滋賀の遺族会青年部は様々な活動を発案し、実行。着実に組織の拡充と発展へと導かれた。今も続く海外戦跡慰霊巡拝や靖國神社の参拝、滋賀県護國神社の「みたま祭」、それに父の像や母の像、さらに僕の知事当選も氏の力の証であり、遺産と

第45回みたま祭

8月13日(土)15日(日) 滋賀護國神社

ひたすら「国安かれ」の一念のもと、国を守るために尊い生命を捧げられた県下3万余柱の英霊をお慰めするため、8月13日(金)から15日(日)までの3日間、滋賀護國神社で「第45回みたま祭」を斎行いたします。このお祭りは、彦根の夏の風物詩としても広く親しまれており、例年、多くの観光客でにぎわいます。まごころの灯を上げ、ありし日のご英霊を思い、夏のお盆の一夜を懐かしくお過ごしください。なお、昨年は神事のみ

の挙行のためお預かりしている献燈は、本年奉納させていただきます。今年、新たに献燈奉納いただける方は、地元郡市町遺族会長までご連絡ください。(大型献燈5000円、小型献燈2500円)

※新型コロナウイルス感染症対策として「金魚すくい」は実施しませんのでご了承ください。ご参拝の際には、検温、マスク着用、手指の消毒をお願いします。

滋賀県遺族会令和3年度沖繩「近江の塔」戦没者追悼式典と中南部戦跡慰霊巡拝

沖繩およびその周辺海域において戦没された本県出身者を祀る沖繩摩文仁の丘「近江の塔」で、平和祈念式典ならびに沖繩戦没者追悼式を12月に挙行します。つきましては、2泊3日の慰霊巡拝ツアーを下記要領で実施しますので、奮ってご参加ください。

期 間
12月18日(土)〜20日(月) (2泊3日)
訪問先
摩文仁の丘・近江の塔、沖繩県中南部の海岸慰霊碑・戦跡など
費用 自己負担金
募集人員 40名
申込締切 10月15日(金)

※参加希望者は各地区の遺族会長を通じて滋賀県遺族会事務局までお申し込みください。新型コロナウイルス感染症状況によって中止の場合もあります。

山田 利治氏(やまだ・としはる) 滋賀県遺族会元会長、日本遺族会元常務理事) 3月13日死去。
85歳。葬儀・告別式は近親者で行われた。喪主は長男利夫(としお)氏。

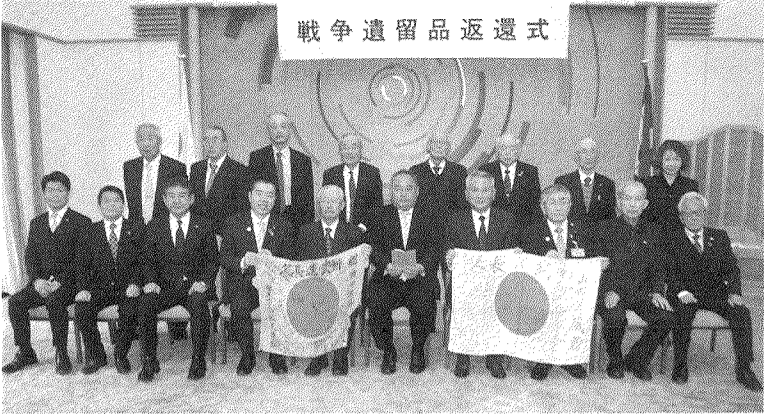
無言の語り部故郷に帰る

戦争遺留品返還式

滋賀県遺族会事務局長 森野 愛子

満州事変や大東亜戦争に出征して亡くなった県内出身3人の戦争遺留品返還式が2月9日、滋賀県公館で行われた。米軍兵士が戦地から持ち帰るなどして米国にあったもので、返還活動を続ける米国オレゴン州のボランティア団体「OBONソサエティ」と滋賀県遺族会の協力で実現した。

返還式は三日月大造滋賀県知事、富田博明副議長、平尾道雄米原市長、小椋正清東近江市市長、岩永裕貴甲賀市長、大長弥宗治滋賀県遺族会長等の立ち会いのもと三日月知事が各遺族に返還された。遺留品は計3点。寄せ書き入りの日章旗2点は、



戦争遺留品返還式

戦争遺留品返還式の出席者

このうち岡田勘平さんの日章旗は、娘の信子さんが出席できなかったため、瀬戸川恒雄米原市遺族会長が遺族の代理として受け取った。山田芳蔵さんの日章旗は、東近江市の山田明宏さんが受け取った。明宏さんは大叔父芳蔵さんのことを「末っ子だった芳蔵は若かったのかわいそうなお話を聞いた。『武運長久』と書かれた日章旗も思った以上にきれいに残っています。寄せ書きには近所の人らしき名前もある」と感激。「まだ海外には多くの遺留品があると

聞くが、遺族の元に戻ってきて貰いたい」と感慨深く述べた。辻英次さんの軍隊手帳は、英次さんの兄の孫、善明さんが受け取った。善明さんは「遺留品が戻ってくることは滅多にない」と聞いており、当時の方の苦労があったと今も我々があるということを実感した」と語った。

大長弥宗治滋賀県遺族会長は「亡くなられた方の何としても故郷の土を踏みたいという思いが遺留品に伝わ



戦争遺留品を返還する三日月知事

ったのかと思うと感無量と挨拶。國松善次相談役は「返還されてきた遺留品は無言の語り部である。次の世代や地域に戦争の悲惨さ、平和の尊さ、友好の大切さを伝えて欲しい」と話した。

77年ぶりに故郷へ

東近江市遺族会 山田 明宏

令和2年秋、遺族役員の方から、山田芳蔵さんの日章旗が帰ってくるのお話をいただきました。

私の大叔父にあたる芳蔵さんは昭和19年12月、フィリピン・レイテ島において戦死されました。芳蔵さんは、私の祖父の弟で5人兄弟の末っ子であったことから、長男の祖父はたいそう可愛がっていたようです。祖父が生前私に話してくれた、「出征して間もなく若くして亡くなった」とか「遺骨や遺品ではなく箱の中に入った木札が送られてきた」ことを思い起こしました。

令和2年秋、遺族役員の方から、山田芳蔵さんの日章旗が帰ってくるのお話をいただきました。芳蔵さんの日章旗が故郷へ帰ってきました。日章旗の寄せ書きには、地域の皆さんの名前が書かれており、今も存命の方の名前があり、芳蔵さんが地域の皆さんに愛されていたことが感じ取れました。この日章旗を見ていると、芳蔵さんが地域の皆さんに盛大に見送られて出征したであろう当時の様子が浮かんできます。日章旗は芳蔵さんの唯一の遺品でありますので、これからは家族で大切に守っていききたいと思っています。

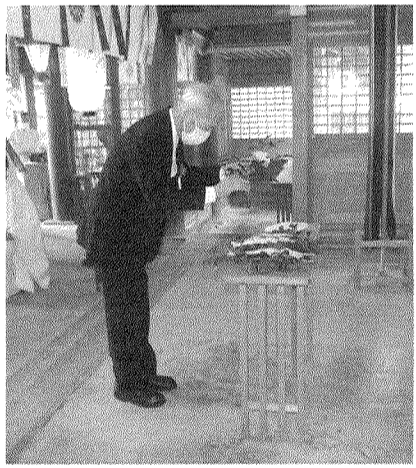
滋賀県護國神社春季例大祭

コロナ禍の大祭粛々と

彦根市の桜は、昨年より5日早く3月22日に開花。月末には満開となったが、まだ見頃の4月5日、滋賀県護國神社春季例大祭が厳粛に斎行された。新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、今回も各都市町がバスの運行を見合わせたことにより、参列者は少なく、テント内はかなり空席が目立った。前日までとは打って変わって当日の気温は11℃で、風も強く余計に肌寒く感じられ、途中で建物の陰に退避する人もいた。

祭典は山本賢司宮司の御霊をお慰める祝詞奏上に始まり、神社本庁の献幣使が祝詞を述べられた。献饌では中川真澄女性部会長がお茶を献納した。祭典は順調に進行し、最後に山本宮司から次のような挨拶があった。コロナ禍で外出することがめっきり減った。会議も全部中止。ストレスがたまって仕方がない。テレビを見る時間や本を読む時間が多くなった。以前に、平川祐弘東京大学名誉教授の「小泉八雲と神々の世界」を読んで非常に感銘を受けた。それ以来、先生のファンであるが、1月5日の産経新聞に「日本は新型コロナウイルスの感染者は外国に比べて少ない。これは神道の影響がある」と書かれていた。皆様にはコロナ禍の時、神道の心を大切にしてください。コロナに打ち勝ち、来年の大祭時にはマスクを外して、もっと大勢の方に参列していただきたい。

(広報 川合 良雄)



令和3年度 滋賀県遺族会の主要事業計画

※事業計画は新型コロナウイルス感染拡大等の影響で、中止・変更される場合があります。

時期	事業名	備考	時期	事業名	備考
4月5日	滋賀県護國神社春季例大祭	滋賀県護國神社	12月4日	第226回理事会 合同会議、国会議員・県議会議員とのつどい	アヤハレクサイドホテル
5月27日	第224回理事会、定時評議員会	県立武道館	12月18日 ～20日	沖縄「近江の塔」平和祈念戦没者追悼式、戦跡慰霊巡拝	沖縄県摩文仁の丘ほか
7月～3月	海外戦跡慰霊巡拝	中国・フィリピン	12月上旬・中旬	日本遺族会戦没者遺族大会と国会議員陳情運動	自由民主会館ほか
8月13日～15日	第45回みたま祭	滋賀県護國神社	12月31日 ～1月1日	除夜祭、元旦祭	滋賀県護國神社
8月15日	全国戦没者追悼式参列（政府主催）	日本武道館	1月7日	新年祈願祭	滋賀県護國神社
8月15日	合同会議	滋賀県護國神社	3月6日～7日	第48回靖國神社昇殿参拝旅行	靖國神社ほか
8月28日	平和祈念県下戦没者追悼式（滋賀県主催）	滋賀県立体育館	3月22日	第227回理事会	県立武道館（予定）
9月15日	皇子山陸軍墓地慰霊碑の彼岸法要	大津市皇子山陸軍墓地	3月25日～27日	第21回次世代戦跡訪問研修事業	鹿児島県知覚ほか
9月15日	滋賀県戦没者英霊塔の彼岸法要	膳所公園	毎月15日	滋賀県戦没者英霊塔月並法要 正・副会長会議	膳所公園 遺族会館
9月15日	第225回理事会	県立武道館（予定）	適時	各市町要望活動	各市町
9月18日	女性部研修会	県立男女共同参画センター	適時	各都市町遺族会会長会	県立武道館（予定）
10月3日～4日	代理参拝第47回靖國神社昇殿参拝旅行 （正・副会長、靖國委員会）	靖國神社ほか	年3回	「遺族の友」発刊（6月、10月、1月）	随所
10月5日	滋賀県護國神社秋季例大祭	滋賀県護國神社	適時	海外戦跡慰霊巡拝写真展	随所
10月12日	第3ブロック会議（日本遺族会）	京都	令和3年10月以降	令和4年～5年役員改選関係会議	県立武道館（予定）
10月23日	滋賀県戦没者遺族大会	近江八幡市文化会館			

女性部研修会に向けて

女性委員会委員長 辻 成子



桜花爛漫の3月31日、滋賀県護國神社で女性委員会を開催しました。3月とは思えない暖かい日に恵まれ、彦根城は花見客で賑やかでした。参加者11人は、先ずご祈禱を受けました。戦没者への黙禱、新型コロナウイルス感染拡大の収束、前田いそ前委員長の健康のご快復をお祈りしました。その後1時間ほど境内の除草作業をしました。

女性委員は一見元氣そうですが、足腰が弱まり、病気を抱えながら、薬を服用して頑張っておられます。やはり通りを歩く若い方は動きが違い、羨ましい限りです。いつも

で出来るかなと思いがながら除草作業を行い、その後、委員会を始めました。女性委員会の大きな事業は「女性部研修会」です。昨年は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となりました。今年こそ開催できるように願っています。

令和3年度女性部研修会は次のように決定しました。

日時 令和3年9月18日

場所 県立男女共同参画センター1（近江八幡市）

講演

高橋松山氏「今も伝わる大津絵の教え」
体験談
中川真澄女性部会長「陸軍軍人―妻に宛てた遺書」
アトラクション
坂井孝之氏ご夫妻「笛演奏」

女性委員会では、女性部研修会までの活動予定を話し合いました。5月と7月に女性委員会を開催します。7月の女性委員会「令和3年度女性部研修会」が実施出来るか否かの話し合いをします。

東京オリンピックを前に新型コロナウイルスの前

滋賀県遺族会総務企画部広報委員会副委員長の川合良雄氏（高島市）が、去る6月20日に急逝されました（享年79歳）。

本紙第266号（6月30日発行）制作の只中のことであり、広報委員会ならびに関係者一同、驚きを隠せず深い悲しみに包まれております。

長きにわたり「遺族の友」編集の中心メンバーとして携わっていただき、遺族会の広報活動に多大な貢献をされましたことに厚く御礼申し上げますとともに、故人のご冥福をお祈り申し上げます。

滋賀県遺族会 事務局長 森野 愛子



女性委員による護國神社境内の除草作業

感染拡大が心配されます。滋賀県の感染者もあまり減りません。7月にはワクチン接種が進み、感染者が減っていることを祈ります。

白木の箱

高月町遺族会 山口 賢孫

昭和20年8月15日、長く続いた大東亜戦争がようやく終戦を迎えた。父は昭和20年5月、南洋の島カリマンタン島において終戦を待たずに、赤道直下の八甲田と呼ばれた行軍中に戦死したと隊付きの軍医によって知らされた。現在はブルネイに国境を接するマレーシア領の一部で、北ボルネオと呼ばれていた。

終戦の翌年、私は地元小学校に入学した。と言っても、前年8月に戦争が終わって1年にも満たない4月のこと、戦時中の流れを引く国民学校初等科に入学したのである。程なく六・三・三の学制が整えられ現在のようになった。教室の黒板上の壁に貼られたカナ五十音表が「ヒノマル」「ラッパ」など戦意を煽ると思われる文字が黒塗りになっていたので覚えている。

さて、1月に前田いそ委員長が体調不良で委員長を辞任したいとの申し出があり、私が引き受けることになりました。中川真澄女性部会長、塚村康子副委員長、中澤光子新副委員長と共に、各都市町の女性委員のご協力を得ながら頑張っていきたいと思えます。よろしくお願い申し上げます。

を抱かされても何ひとつ実感はなく、その年友だちになった同級生とはしゃいでいた。やがて村葬儀式も終わり、主だった親戚とともに隣村を通り帰路についた。約2・5キロの道程を歩いた。さすがに周りの空気の暗さに包み込まれて、さびしさ悲しみがじわじわと身にしみてくるのを覚えた。白木の箱には遺骨ではなく遺髪と軍隊手帳、母の着物で手縫いした「お守り袋」が小さく沈んでいた。

祖父はかつて、村長をも務めた名士として村人達から慕われていた。なればこそ、息子の死を名譽の戦死と為し、取り乱すことを許されなかつた。公報によって戦死を知って仮葬儀を出して喪に服し、遺品が戻った日から再び喪に就いた。祖父は気落ちするとともに体力を失い、四十九日の喪が明ける頃、晩秋の風に誘われ静かに逝った。

遺された家族は祖母と母、それに私たち兄妹の4人となった。初めのうちは「お国のために命まで捧げた英霊の家族」として温情の念も厚かつた。しかし、戦後の食糧難と経済事情によって村

その年の秋、風の中に涼しさが混じりだした9月、滋賀県護國神社を通じ戦没者の幾柱かについ



父は私の幼い頃国に召集され、面影なども覚えていない。突然白木の箱

祖父の顔を見たくて参拝しました。今度は、親族一同で来参します。

（高島市 Yさん夫妻）
昨年5月に写真を置いていた日合せて10日の命日に合わせていただき、ありがとうございます。やっと思ひました。「やっと思ひました」

漸くスタートしました。世界各地の状況も、極めて深刻なデータが報道されていますが、接種の状況が進んでいる国、地域から脱出への兆しも見えてくるようです。

私達も我が国の現状を直視し、拡大防止の大原則を遵守して、この夏は外出を控え、テレビで東京五輪・パラリンピックに声援を送ることになるだろう。そして次号が発行される頃には、ある程度、明るい光が見えることを願うばかりです。

（彦根市遺族会 原 幸男）

◆滋賀県護國神社 英霊顕彰館だより◆

【入館者数】（フット帳者のみ）

12月	8人
1月	19人
3月	5人
4月	18人
5月	8人（29日まで）



たじふひなみ

忠魂碑を守る気持ち

東近江市遺族会（市辺地区） 福島 睦一

私の支部は、数年前に新年祈願祭の様子を県下の皆さんにお知らせしたことがありました。今回は忠魂碑のことをお伝えします。

大正12年12月に建立された市辺地区の忠魂碑は、支部会長の谷一明さんが調べてくれました。結果、明治維新に活躍、総理大臣を経験された山県有朋氏の揮毫によるものと分かりました。この事は、東近江市遺族会が昨年末に各地

域の忠魂碑の調査をされたとき判明したものです。建立については、市辺地区には当時豪商と言われた方が活躍されていて、小学校の講堂やプールを寄贈されたことも分かってはいますが、この方々の努力のお陰で忠魂碑も建立されたのではないかと推測できます。また同じ頃、私の糖塚から県議会議長を務められた中村源右衛門氏や市辺村村長の福島重一氏のお力添

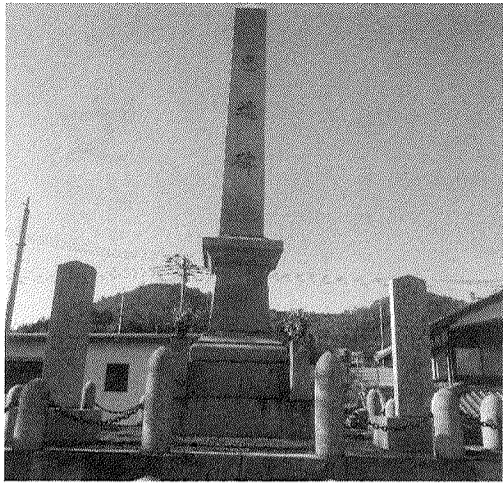
えがあったのかも知れませんが、この忠魂碑を今後守っていくことが、大変な時代になってきました。12月20日は生憎の粉雪が舞う厳しい天候でしたが、毎年行っています年3回の清掃作業を当番に当たった地域の会員さんのお陰で綺麗にできています。各地区とも同様と思いますが、市辺地区でも忠魂碑の調査をされたとき判明したものです。建立については、市辺地区には当時豪商と言われた方が活躍されていて、小学校の講堂やプールを寄贈されたことも分かってはいますが、この方々の努力のお陰で忠魂碑も建立されたのではないかと推測できます。また同じ頃、私の糖塚から県議会議長を務められた中村源右衛門氏や市辺村村長の福島重一氏のお力添

忠魂碑に思う

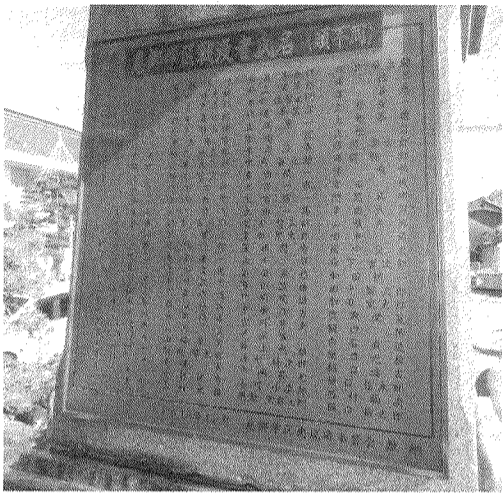
米原市遺族会 泉 峰一

前号でも忠魂碑の管理についての投稿がありました。これらの老朽化により周囲への危険が迫っているものや、

管理体制などで問題が生じているものが多くあると思われ



息郷学区忠魂碑



忠魂碑基壇裏面の戦没者氏名

私たちが息郷学区では例年、忠魂碑前法要を区長会（奉賛会）が主催し開催されてきました。これに向け、忠魂碑周囲の清掃や葉刈等を日赤奉仕団、老人会が行い、管理が行われ、管理が継続されるか危

うくなっています。戦没者の追悼法要は戦後75年以上となり不要としても、この歴史を次世代に繋ぎ、戦争のない社会を希求する平和祈念の式典は必要で、そのためのよりどころとして、この忠魂碑の名前を変えてでも守っていく取り組みが必要だと考えます。これはただ遺族会の問題ではなく市民国民全てが考えていくことであり、行政が主体的に方向性を示し、前に進めるべきだと思います。コロナ禍で何事も見直し、新しい方向を求める今の課題を行政に積極的に示し、全国的な動きを作り出す時期に来ているのではないのでしょうか。

た。その中であって、各家庭で戦没者を全く知らない会員さんが今日のような天気の中にもかわらぬ気持ちよく作業に参加してくれたことに感動しました。この気持ちこそ、これからも英霊顕彰が続く力になるものと期待します。



忠魂碑周辺の清掃作業

「残された戦争の記憶（立田証言集）」を発刊

守山市遺族会会長 山川 芳志郎

あの厳しかった大東亜戦争終結から76年の歳月が経ちました。年月とともに戦争の悲劇が風化されつつあります。この平和で豊かな守山市でも悲しい、辛い出来事がありました。

（その1） 終戦の前月、昭和20年7月30日午後4時頃、守山駅が空襲に遭い、11人が死亡、22人が負傷する惨事がありました。詳細は「遺族の友」第265号「さざな

み」に掲載させていただきました。

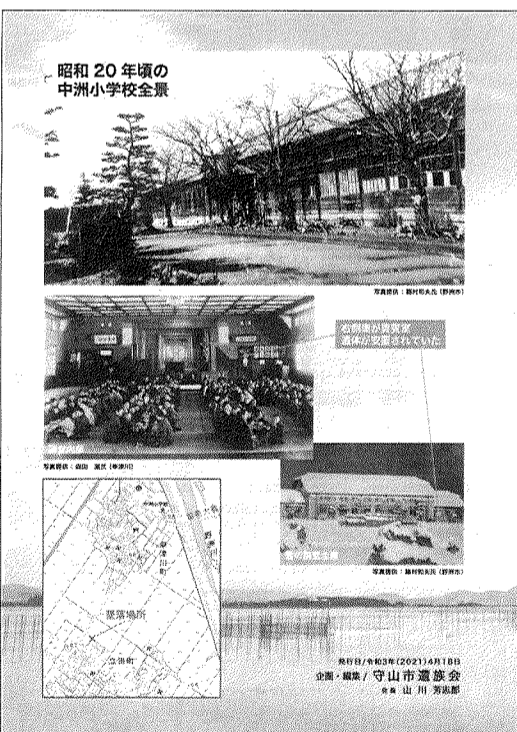
（その2） 玉音放送が流れる前日の8月14日午前11時頃、米軍と日本軍の戦闘機が空中戦になり、日本軍の戦闘機が立田地先に墜落、パイロット1人が戦死しました。証言は少なく、事件は風化の一途を辿っていました。守山市遺族会ではこのたび、この記録・証言を洗い出し、「残された戦争の記憶

残された戦争の記憶（立田証言集）



- 1) 米軍の飛行機と日本の飛行機が空中戦になり日本の飛行機が立田地先に墜落した。
- 2) 墜落した日機 - 昭和20年8月14日 機体番号111号機。
- 3) 墜落した日本の飛行機の型（上記写真のような2双翼の飛行機）。
- 4) パイロットの戦死は不明、戦死したか不明。
- 5) 機体 - 中洲小学校へ運ばれた方から「この機体は立田地先の立田地区に墜落し、機体はそのままに置かれた。機体は壊れた。中洲村で解体処分された」という証言があった。
- 6) 日機不明。当時立田地先の立田地区に墜落した。大東亜戦争公報の通り米軍の機体は立田地先に墜落した。
- 7) 日本の飛行機は大津駐屯地から八日市飛行場へ「運搬」という状態で飛んだのかその経緯は不明。

「残された戦争の記憶（立田証言集）」の表紙と裏表紙



（立田証言集）と題して冊子にまとめることにしました。事業の推進にあたっては、多方面から助言や資料の提供、貴重な証言をいただき、次第に当時の様子が浮かび上がってきました。きっかけは、守山市制50周年記念行事のひとつ、「みらい懇談会」の座長を務められたK氏（元岡山大学学長）と私の対談でした。K氏「山川さん、守山空襲はよく調べ、上手にまとまっています。ところで8月14日立田地先に飛行機が墜落したことはご存知ですか」。山川「概略は知っています。K氏「遺族会会長の山川さんですらそれくらい認識です。大半の市民は知らないと思います。今のうちに生存者から聞き取りや資料収集・調査の上、執筆してください」。この対談でK氏の強い依頼を受けたのです。早速、遺族会のメンバーと何回も協議を重ね、聞き取りや資料の収集・調査に当たり、やっとこの冊子が出来上がりました。聞き取りに協力いただいた方、体験を文章にして提供いただいた方、貴重な写真や資料を提供いただいた方など、小冊子ですが本当に多くの方のご協力をいただき完成しました。中でも当時中洲村の村長をしていただいたM氏の貴重な日記が蔵の中から見つかり、提供いただきました。第1級クラスの資料です。ありがとうございます。

この小冊子を関係する中洲学区の全世帯に配布。併せて守山市の広報誌にも掲載していただく予定です。